

木曾川水系河川整備計画（原案）公聴会 岐阜会場

日時：平成20年1月18日（金）

19時00分～20時23分

場所：岐阜市消防本部 6F 大会議室

【公述人1】 公述人の1番でございます。今回の30年にわたる木曾三川の改修計画という形で随分長期にわたって御検討いただきまして、いい原案ができたのではないかといいことで、関係各位には敬意を申し上げたいと思います。基本的には賛成でございますが、その中でも特に配慮いただきたいということにつきまして、本日3点ばかり御要望申し上げます。

私、実は木曾三川フォーラムに所属しておりまして、そのメンバーで鵜飼大橋の下のところに小さな水路があります。百ヶ峰の方から流れてくる水路で、わずか1,000mばかりの非常に短い水路ですが、ここに湧き水もありまして清浄な水が流れております。ここに魚が非常にたくさんすんでおりまして、特に流れが緩やかですから稚魚がたくさんすんでいるわけです。洪水のときしか本流とはつながりませんが、そのときにそこから魚がかなり流れ出して行って本流に流れていく。補給するような場所になっているわけです。本来ならそういった役割はワンドのあたりで行われるべきですが、長良川はワンドが非常に少ないという特殊な地形でございます。そのために、こうした小さな水路は稚魚にとっては非常に貴重な場所なんだろうと思います。

そこで、生物調査をいたしましたところ、そこに外来魚がかなり入り込んできているということがわかりました。ブラックバスであるとかブルーギルであるとか、そういったものがもう既に入り込んできております。恐らく本流にもかなりいるだろうと思いますが、正確に本流にどの程度のものがあるかという調査がなされておられません。したがって、今回の計画の中にぜひ加えていただいて、どの程度の外来魚が入っているのか、また、これを駆除するためにどういう方策があるのか、そういった検討を市民も巻き込んだ形でぜひ御検討をお願いしたいと思います。これはすぐに予算をつけてどうこうすればいいという問題じゃございませんで、駆除には大変難しい部分があるかと思いますが、これから研究をするという部分においてぜひとも御配慮いただきたいと思います。

それから、次の要望でございますけれども、実は木曾三川は堤防を道路がわりにかなり

使っているわけです。これは全国でも珍しい形でございます、これだけ長距離にわたって堤防道路が使われている場所はないかと思えます。ところが、この道路というのは、堤防であると同時に道路であるということは、管理者が別なんだと思えます。道路管理者と河川管理者と両方が協業しなければうまく管理ができないということかと思えます。残念ながら道路として見た場合には、非常に不完全な道路だと思えます。ガードレールも十分にありませんし、センターラインが引いてない場所もある。そこを大型の車がかなり走っているという場所もございます。そういう意味で、現在は国土交通省が旧建設省と旧運輸省が一緒になったわけですから、一本化した管理をぜひ進めていただければありがたいと、そして、安全な道路をつくっていただきたいということを要望申し上げます。

それから、3番目の問題でございますが、現在、道路である堤防ですが、これは土盛り堤防については、かなり雑草が生えてくるわけです。この雑草の管理のためにかなりの税金が毎年投入されているわけです。毎年新しい植物は生えてきますし、また、それを刈り取らなきゃいけないということをやっているわけです。しかも、その処分の仕方が最近燃やすことについて非常に抵抗がある。地球温暖化の問題もあるということだからかなり抵抗があるわけです。しかし、これをコストを下げながら管理をしていくという意味では、現地で処理して、現地で焼却処分するというのも、あえてこれはやらざるを得ないのではないかと思えます。

アマゾンの森がどんどん焼かれているという現状から見ますと、非常に小さな問題ですし、このくらいのを大金をかけて管理をしていかなきゃいけないというのは、ちょっと異常なのではないかということを考えております。そういう意味で除草経費を削減するという意味からも、現地焼却ということを取り入れていただいているのではないかと、あえて申し上げたい。

付近の住民の方あるいは自治会の方と、この辺はそれぞれよく御相談をお願いしたい。そうしないと、住民から反発がかなり出てきます。洗濯物が汚れるとか、そういった苦情が出てまいりますので、その辺は自治会と十分に協議していただいて、コスト削減につながる方法であれば、取り入れていくということをお願いしたいと思えます。

まだ、時間はちょっと早ようございますけれども、以上で私の公述は終わらせていただきます。ありがとうございました。

【公述人 2】 皆さん、こんばんは。公述人 2 の、私は木曾川のふちにある笠松町から参りました。今日は川のすぐ近くに住んでいる地域住民のささやかな願いを聞いていただきたいということで参りました。

私は、現在の笠松港の公園のある堤防の下で生まれました。以来 60 年ずっとそこに住み続け、毎日のように木曾川を見てまいりました。そこで、地域住民の声として、今日は 3 つの願いをしたく本日の公述人として参加させていただきました。

1 つは、水が今ほとんどなくなってしまいました。私の小学校のころは、初夏になると笠松港から大船に乗って 40km ぐらい下って、今の長島町あたりで潮干狩りに行くのが初夏の楽しみでした。それも木曾川大堰が昭和 35～36 年にできて、それも不可能になりました。そして、小学校、中学校の時代は、学校にプールがなく、水泳といったら木曾川で毎日のように夏休みは町内ごとに班を決めてプールがわりに使っておりました。

そんなこんなで木曾川は非常に小さなころから思い出のいっぱいある場所です。そして、子供が中学校になったときに、PTA の役員を仰せつかりまして、当時の校長さんがこれからの木曾川はだめになってしまうので、役員の方で何とか守ってほしいという校長先生からの切なる願いで、25～26 年前「木曾川を愛する会」を立ち上げまして、毎月いろんな勉強会をしてまいりました。

当時の校長先生が懸念されていましたが、一昨年とうとう起きてしまいました。それは、木曾川の川底がとうとう顔を出してしまったのです。私は 60 年見ておりますが、こんなことは本当に異常であります。その川底も現在では、川の中の島ほど大きく成長してしまいまして、これは本当に一体いつまでになったら川が干し上がってしまうかなという、そうならないのが、地域住民の切なる願いです。

川島町に至っては、北派川、南派川と流れておりましたけれども、現在は南派川は全く水が流れておりません。一体、木曾川の水は利用され尽くしてこんなふうになってしまったのかどうなのか、根本的なことをよく考えてとにかく早急に何とか水を確保してほしいというのが、地域住民のささやかな願いでございます。

それから 2 番目、これは皆さんのお手元にある資料の 19 ページ目のお話をしたいと思います。

この木曾川橋の下には、本当にすごい広い砂浜がありました。これは昭和 22 年の写真ですが、戦時中はここがグライダーの訓練基地の場として利用されるほど広い砂浜で、私たちも喜んで夏になると毎日ここで水泳をしたものです。それが原因はわかりませんが、現

在では下の写真にあるように、全くその砂浜が消えてしまいました。消えただけならいいのですが、ここにあるように河畔林がいっぱい増えてしまって、堤防の天端よりうんと高い河畔林がいっぱいです。だから、堤防から見ても川が全く見えない。

それから、対岸の愛知県側になります。雀のお宿といって白い砂浜ときれいな松原が売りの本当の名勝地でした。それが現在では全くなくなってしまいました。今行っても雑木林、川岸まで近づけない、ごみだらけ、一体この砂浜が消えたことで、河畔林を伐採することは簡単でありますけれども、根本の原因を直さない限りは毎年むだなお金を使って木を切ってしまうようなことになるのではないかと思いますので、根本的なことを考えて河畔林対策はやっていただきたい。

それから、もう 1 つ、笠松町は木曾川にひっついて町が成り立っております。30 年かけて堤防の改修ということで 5 町内 250 世帯ぐらいが立ち退きました。堤防改修という名目で町の 5% の人がてんでん散り散りばらばらなのです。だから、堤防の下にある私の育った本町通り商店街も、今はこれだけの人がなくなってしまったわけですから、それと時代の流れとともに全くシャッターの閉まった商店街です。これだけ国の行政に協力しましたので、もう少し河原を地域住民のために気楽に何とか使えるようにつくってほしい。今確かに堤防は立派になりましたけれども、向こうへ行くのがなかなか大変なんですね。

それから、これから日本の次代を担う子供たちのためにも、市街化地区の河川敷は貴重な財産です。心の癒しにも大事な場所ですので、この河川敷の利用ということをもっともっと地域住民の声を聞いてこれから進めていっていただきたいと思っておる次第です。

以上 3 点、地域住民の生の声ということで公述させていただきました。ありがとうございました。

【公述人 3】 公述人 3 番目の大垣から参りました〇〇〇〇と申します。さきにお話しなさいましたお 2 方は木曾三川フォーラムの長良川、木曾川でしたが、私は、揖斐川の立場でお話ししたいと思います。

というのは、私は、小さいころは揖斐川の近くに住んでいまして、そこが夏場の遊び場だったという、そんな感触があるものですから、そんなことから徳山ダムを意識しながら見ていきたいと思います。

徳山ダムの風景を映していただきたいと思います。ここ何年かは三川フォーラムの方たちと一緒に動いていたのですけれども、ちょっと手違いがあって今年行けなかったものから、このお話があったときに、単独で参らせていただいたら、これはちょっとボケてはいるのですけれども、現実にはもっともっとすばらしく感激して帰ってきたのです。

次は、途中から渡る橋ですけれども、もう 1 枚後でありますけれども、そんなのを見てもすごい感激して、私は、いろんな国を歩いてきたのですけれども、イギリスの湖とかいろんなところを回ってきました。この画像ではちょっと感触が得られませんが、すばらしい風景だと感じて感激したのです。

それと先月、アジア太平洋水サミットというのが大分で行われたのですけれども、そのときに皇太子様が水辺への思いやりあるお言葉で締められたのですが、その言葉の中で水供給や整備が地方自治体や NGO のネットワークによって異なった人たち、我々もいろいろな人と関わりながら動いているのですけれども、そういったことがこれからの発想に必要ではないかという、そんなお言葉もいただいた次第です。

先ほどから木曾三川フォーラムというのを申し上げているのですけれども、最近、揖斐川流域の方も立ち上がってきましたが、まだまだちょっと寂しい感じで、中流域のお魚のグループで河道掘削の現場を検討させていただいた場合に、住民意見、お魚を愛する専門家が入ったおかげで、とてもいいワンドとかスロープの状態といったものをつくることもできたし、どうしても今までは行政というのは四角四面でしたけれども、市民が入ることによってもっともっといいアイデアで生物と一緒に共存できる、いい流域ができるのではなかろうということ、そういった感覚で揖斐川を見てきたのです。徳山ダムがもうすぐ完成するのですけれども、今後もっともっとこの流域をすてきな景観を残しながら、本当に利水や環境保全をきちんとしながら、世界に誇れる貴重な水というのを生かしながらやっていこうじゃないかということ、思っています。こういった木曾三川フォーラム通信というのが出ていますから、心ある方たちに御参加していただけるといいかなと思ってお

ります。

それと、この山は 30 年前に木が伐採されて余り植林されていないのですが、今は天然林がいい、広葉樹がいいと言われているのですけれども、ちょっと誤解がありまして、実はこの部分というのは、火山岩なものですから保水力がすごくあるので、針葉樹も植えて根をしっかりと下の方へ張ってほしいと、そういう山ですから、一部にはそういったものも入れていかないといけないのではなかろうか。裏側の福井県側は切っていないですから緑豊かで、大野の水は湧水がすごくすてきにありますので、ひょっとして思い違いかもしれないけれども、やはりその手抜きが今なかなか水がたまらない、そういう環境をつくってしまったかなみたいな、そんな思いもごさいます。今後、いい流域を愛しながら、本当にこれから淡水の貴重なものを使っていかなきゃいけない地球環境ですから、皆で大事にしていきたいという思いでおりますので、今後ともよろしく願いいたします。

もう 1 枚だけ映してください。こういうすてきな自然がありますし、たまたま年賀状を野鳥の会の友達が、僕たち一生懸命景観を意識して提案したから、やっぱりいいでしょうということを本当に実感としてとらえました。

以上、ありがとうございました。

【公述人 4】 4 番目として、一言お願いをしたいと思います。私は、ただいまの〇〇〇〇さんと一緒に、大垣から参りましたが、私の年齢でございますと、昔からこの地域は大垣の中心市街地が大体 8m 前後の海拔で、我々、下に位置しておりますのは大体 2m～2m50cm の海拔の地域でございます、この地域に生まれ育った者は、先祖伝来から治水に始まり治水に終わるという人生を繰り返してきたような気がいたします。そして、そういうことを先人から受け継いでまいった者でございますが、この揖斐川というのは、割と急流でございます、その面について水害面が非常に憂慮されてきた今日でございます、それに伴って今大きく徳山ダムということで、安全度を増してまいりましたが、それについて完成に近づいてから、この導水路という問題が利水の関係で上がってきたのですが、その辺について、ちょっとお尋ねをしながらお願いをしたいと思います。

もともとは徳山ダムは、揖斐川流域の住民の安全・安心を得るために、治水、利水が最優先されるべきであったはずで、私たちはともに要望運動をしてきたものでございます。水は生活の必需品であり、不可欠なものでありますが、この資源は無限ではございません。その流域住民は今日まで治水を最優先され、またその中で、濃尾平野は扇状型の平野でございます、この水を有効に利水させていただき、農地でございますので、稲作中心の地帯でございます。流域の農民にとっては非常に貴重な財産でございます。これをいかにどうすることということで、今までは憂慮しながら横山ダムの水、また西平ダム等のダムの容量を少しずつ利用させていただき、何とか今日まで来たわけでございますが、これからはこの徳山ダムの水量におんぶできて、また、安心して利水させていただけることができるのではないかと、今期待しているわけでございます。

その中で利水、治水を守り続ける中で、導水路計画が上がってまいりまして、これは余剰水としての配分の中で計算され尽くした範囲で、互いに助け合って利用をしていただく分においては道義的には理解できる部分でございます。徳山ダムの目的は、洪水調整、正常流水の維持、利水、発電の 4 つを目標に掲げる多目的ダムであると、我々は信じながら今日まで試験湛水の結果を見きわめたいということで今楽しんでおるような状態でございます。

ここまで来て日本全体が原子力等のいろいろな電力確保のために問題を抱えながら原子力に頼ったり、また火力発電に頼ったりしているのですが、こういう自然の部分の多目的、特に発電ということを重視しながら、今後、生活を脅かせる石油等の高騰ということで、そういう面の配慮をしながら、ぜひとも早く水力発電の開発に向けて進んでいただきたい

ということで、ここにその点を強調するように、我々流域の者も願っておるような次第でございます。

また、河川の整備、先ほどもいろいろありましたが、我々も揖斐川を中心に大垣には 12～13 本の一級河川が入り込んでおりまして、平成 2 年、12 年、14 年、16 年と支流の大谷川の洗堰という明治の代に中心市街地を助ける意味か、遊水の機能をそこで持たせるという意味か、また昔から古い輪中という 1 つの中に、我々の部分においては、戸田流域の中でそれを囲むように天領地という言葉 皆さんお聞きになったと思うのですが、そういう天領地で保護された部分の輪中とは非常に強度が違いまして、その悲哀が隣部落であって、隣は水がつかなくても、またその一方では、高い部分にあっても洪水に遭っておるという地域はそれを繰り返してきたのですが、これが徳山ダムの完成によって均等に守られるような気がいたしますので、今後とも整備をぜひとも継続しながら、その状況を把握して十分我々が安心・安全で生活ができるように、また、今後とも整備をお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

【公述人 5】 大垣市から参りました〇〇〇〇と申します。お手元の意見の概要のところにとたくさん書き込んであります。1項目ずつやっても1つ30分ぐらいはかかります。本日は一番下の3番、不要で弊害の大きい木曾川水系連絡導水路に予算を取られて、必要な治水事業が遅延することの懸念ということに絞ってお話しさせていただきます。

その次のページに2つ資料をおつけしましたが、これは本日述べられないことの補充という意味です。後ほどお目通しください。

河川整備計画の目途30年、この中で何が優先されるかについては、原案でも、そして最終的にも明記はされません。言ってみれば優先順位については、河川管理者の胸先三寸ということになってしまいます。今、国交省が木曾川水系河川整備計画策定をこんなにも焦っている、急いでいるのは、非常に問題の大きい新規事業である木曾川水系連絡導水路建設を何よりも優先しているからだ、私は断定します。この導水路は整備計画に位置づけられると同時に、木曾川水系水資源開発基本計画、木曾川フルプランに位置づけられないと、水資源機構事業には法律的にはなりません。しかし、来年度予算に既に水資源機構事業の建設費として予算をつけています。そして、だからこそ、今日18日を最後に住民意見聴取を終えて策定してしまうというスケジュールになっていると感じています。

この導水路事業はそんなにも急いで必要なものでしょうか。私は、不要不急どころか有害無益な事業だと考えています。有害であることの理由の1つは、導水路事業が優先されることによってほかの治水事業が遅れるということです。導水路事業は整備計画の多くのメニューの1つにすぎないのですが、既に来年度予算に15億円ついています。治水特別会計という名前の国土交通省河川局のお財布、来年度から名前は変わりますが、本質は余り変わりません。年々やせ細っています。その特別会計の中で不要不急な導水路に予算が配分されます。配分比率としてほか削られる。それだけではなく、こうした特殊な建設事業があると、高いリース料の機械などを使いますので、さっさと完成させないと事業費が膨らむ。だから、ほかを削っても優先するんだという論理が働く。この具体の例を大垣市西部の水害常襲地域、前の公述人の方も言われましたが、荒崎地区というところの水害と2004年度徳山ダム建設事業費増額の問題ではっきりと見てとれると感じております。

スライド1をお願いします。上のところ、2002年7月荒崎地区の水害の様子です。住宅地にこれだけ水が入って、ほぼ25時間湛水しました。床上浸水309戸、床下浸水173戸の大被害です。

スライド2をお願いします。ここのところが先ほどの荒崎地区です。そして、下の図の

この辺のところです。揖斐川がありまして、杭瀬川があり、牧田川があり、そして、その杭瀬川に大谷川が流れています。2002年の洪水というのは、この大谷川の越流堤、洗堰、15回目の浸水でした。

スライド 3 をお願いします。これは洗堰で、上が普段で、下が越流しているときの図です。大谷川の水位が高くなったときに、対岸や下流を守るためにつくられたものです。破堤を避けるためにどこかで越流させるということ自体は、ある程度合理性があります。

もう1度スライド 1 をお願いします。しかし、その流し込まれた先に、こうした住宅地があります。行政が率先して開発した住宅地です。そこに暮らしている住民にとってはたまったものではありません。急いで対策の必要なところですよ。河川は下流から整備するという原則があります。ここが揖斐川本川、牧田川が流れてきます。この上のところで杭瀬川と牧田川が合流して、さらに上に大谷川があるわけですが、ここの部分は改修中でした。

2 をお願いします。この赤丸をつけたところが2002年のときに改修中だったんです。この改修が終わらないと、洗堰には手がつけられないという説明でした。

4 をお願いします。2003年8月、徳山ダム事業費1,100億円増額という大問題が起こりまして、年度中に決着がつかず、2004年度予算というのは、従前の総事業費2,540億円の枠いっぱい、93億円しかつきませんでした。要求は180億円です。2004年7月までに国は強引に事業費960億円増額を決めまして、しかし、補正予算は国会に出されませんでした。非常に不思議に思って調べました。そのときの87億円はどう都合したか。

これはちょっと見にくいのですけれども、治水特別会計の項の間の移用ということをやりました。非常に特殊な財政テクニックです。「移用」移して用いる、どこから移したのか、どこから削ったのか、これを調べたこの時点で、治水特別会計の中で手当てした31億5,000万円のうち、19億円は何と牧田・杭瀬の合流点の改修事業の事業費を削って徳山ダムにほうり込んだ、これが現実です。

もう1度、1、2、この地点です。ここの事業6件、約19億円が削られて徳山ダム事業費に化けました。その後で保留解除になったのですけれども、その延期になっている最中、2004年10月に荒崎地区はまた浸水被害を受け、174戸が床上、床下浸水の被害を受けました。ちなみに、ちょっと申し添えますと、19億円がここの部分の予算が削られたのですが、ほかに長良川水系犀川の排水機場3億円、それから、岐阜県の砂防事業費補助4億6,500万円も削られました。この砂防事業費については保留解除になっておりません。

スライド 5 をお願いします。これも見にくいのですけれども、岐阜県の河川整備状況を示

しています。岐阜県河川課のホームページです。赤いところは非常に危険ということです。黄色いところは危険です。岐阜県全体でこれだけ危険なところがあります。今、示されている整備計画（原案）は大臣管理区間です。しかし、県管理区間と無縁ではありません。特にお金の面では、国からの補助がないと岐阜県は何もできないというのが現状です。岐阜県全体のダム以外の河川事業費全部を合わせて年間 114 億円という規模です。大規模な異常洪水のときに、木曾川のヤマトシジミ大切だね、29.7 億円、これを岐阜県が負担する。まじめな話なのかどうか、私は本当に不思議です。

河川環境の保全というのは非常に重要だと私も思っております。だからこそ、この連絡導水路事業に反対します。同時に河川管理の一番の重要問題は、流域に暮らす人の安全だと、私は信じています。だからこそ、必要もない、害が大きい木曾川連絡導水路に予算を取られてしまうこのような河川整備計画（原案）には強く反対いたします。この河川整備計画（原案）は1から作り直していただきたいと、私は思います。

ありがとうございます。

【公述人 6】 6 番です。長良で生まれて 60 数年、長良川をずっと見てまいりました。大変美しい川で今でも誇りに思っておるわけです。長年、この木曾三川の整備計画がいつできるのかと待ちに待っておって、やっとでき上がって首を長くしておりました。

いろんな方がおって、いろんなことでこの整備計画を見る、反対も賛成もあるだろうと思いますが、概ねこんなところかと実は思っているわけです。その中で実は私は長良川環境レンジャーで 10 年運動をし、木曾三川フォーラムでも運動し、そして、この環境について随分関心を持って今日までやってきました。この整備計画の環境の部分を見る限り、いかがなものかなと、もう少し力を入れてほしいということで少し意見を述べさせてもらいたいと思います。

1 つは、河畔木についてですが、特に平野部に出ますと、緑が大変少ないということで河畔木というのは大変貴重な緑だろうと思っておりますが、現状は先ほどから少しずつ意見が出ておりますけれども、河畔木が大変多くて樹木化が進行しております。もう 1 つは、洪水のときに、これはごみの堆積場所、もう 1 つは、心ない方の不法投棄の場所になっておるということで、大変困っておるのが現状です。

それで、河畔木を全部伐採するということは、今、地球温暖化の問題も含めていろんな意味でいかがなものかと、長良川を見てみても、木曾下流が今やられている公園化のように、余りにもきれいにするのもいかがなものかと、けれども、木曾川上流範囲内で見ると、全く樹木化して裸地もない、もう少しきれいに、さっぱりとできないのかという気持ちを持っております。

そういう意味では、木曾川、長良川、揖斐川、全部条件が違いますが、わずかな人間で僕はいいと思うわけですが、検討委員会を設けて、そして、その検討委員と各河川、木曾川は木曾川にもいろんな事情がある。長良川には長良川の事情がある。揖斐川には揖斐川の事情があるということで、地元も含めながら河畔木について検討をひとつお願いをしたいと思っておるわけです。

もう 1 つは、外来種の問題。今、岐阜市もやっと少し忠節用水の暗渠化をとりつつあるわけですが、あんな小さな忠節用水の中でも外来種が、今、随分生息しておる。1 番の方も言われましたが、私も一緒にやっておるわけですが、あんな小さな鵜飼大橋の河川の中にも外来種がいる。

もう 1 つは、植物です。私が一昨年 1 年間、長良川の、特に雄総地区の狭い範囲内ですと写真撮影をして歩くと、かなりの外来種が生息しているということで、木曾三川全体

の中で動物、魚、植物、この外来種が一体どのぐらいの実態があるのかというのも、少し力を入れて調査をまずしてもらいたい。この外来種についても、ただ外来種といっても、僕はいつも思うわけですが、我々が主食としている稲もたしか外来種のはずですが、外来種といっても一体どこまでを外来種というのか、ちょっとわからないわけですが、環境省のいろんなデータの中で、今、自然破壊をされる外来種について、もう少し検討する時期に来ておるのではないか。けれども、幾ら検討しても100%これができるかというところ少し問題があるわけですが、どちらにしても、動物、植物、魚の外来種というのは大変多くこの三川の中にあると思いますから、これもひとつぜひ検討委員会を設置していただいて、各河川ごとにどういう形で外来種を駆除していくかということをお願いをしたいと思っております。

もう1つは、私も環境学習でいろんな川について子供たちと一緒に勉強するわけですが、特に長良川の真っ白の河原、これは私も5年ぐらい前までは自慢をして、子供たちにこんなすばらしい河原が長良川にはあるんだぞということでやってきたわけですが、ここ4~5年前から全く河原が消えつつある。そして、なぜかなという形で私もいろいろ検討すると、上流からの土砂の流れが大変多い。こんな雨でも真っ赤に濁ってくるのかなというぐらい土砂が流れてくるということで、河原が土砂に埋まって、そして外来種が発生する。グラウンドホテルなんかに行ってもらおうとよくわかるわけですが、あそこも真っ白の河原であったわけですが、シナダレスズメガヤの群生地になっているとか、いろんな形で、今、外来種がはびこっておるということで、これについても何とか真っ白な河原を取り戻していただきたいなということで、これを戻すということは、今の外来種の対策をきちっとやっていただきたい。

17 ページを見てもわかるわけですが、なぜか長良川は環境の整備メニューに実はない。なぜかな、よっぽど外来種がないのかと僕は思うわけですが、事実はそういう形ではないということで、もう少し整備計画の中で検討をお願いしたいと思っております。

以上です。

【公述人 7】 7番の〇〇〇〇でございます。私、19年間揖斐郡揖斐川町に住んでおりました。27歳から岐阜の長良というところに住んでおります。特に、揖斐川、長良川も含めまして非常に砂利が堆積してきている。今度の治水事業計画を見ますと、河道掘削をしていただけるということで、少しでも今までよりも安心できる条件が続くだろうかと期待をしております。

問題は、利水事業において三河、知多方面の渇水期における水不足というのが本当に深刻なものです。ですから、私は、どうしても導水事業計画における促進をしなければいけないのではないだろうかと考えています。ただ、導水事業におけるルートに非常に問題があるのではないかと考えております。なぜ上まで持っていくのか、もっと簡単な方法があるのではないかと。我々一般市民及び誰が見ても「あ、なるほど」と理解ができないような事業はしてはいけないと思っております。

20世紀に多くの人たちがいろいろな施設をつくってきています。それから、つくってしまった施設も現在あります。これをどう活用していくかというのが導水事業の一番基本的な問題ではないでしょうか。やっぱり一般の国民がこの事業は何だったんだろう、今日の中でもいろんな意見が出ましたが、なぜこんなことをやってしまったんだろう。じゃ、20世紀につくった施設は何のためにつくったんだということをもう一度見直していただきたいと思っております。

導水管埋設事業計画の見直しということで、私なりに考えてみたのですが、岡島頭首工より、まず根尾川の方に $6.7\text{m}^3/\text{s}$ ぐらい導水をしていただきたい。少なくともそこから藪川に $2\text{m}^3/\text{s}$ は放水していただきたいのです。いつもここは枯れます。生き物がすべて絶滅する状況になっております。

それから、長良川には直接放水はやめていただきたい。これは生態系の問題も含まれますが、水質の問題とも大きく影響してくると思います。一般的に考えると、岐阜の千疋堰あたりのところから、現在各務原用水というのが入っております。ここの取り入れ口に長良川に落とさずに直接入れていただくことによりまして、まず長良川から持ち出している各務原用水の分がクリアできるのではないかと考えております。各務原用水に導入した水は、新境川へ落としていただきたいのです。新境川に落としていただければ黙っていても木曾川に落ちます。そうしますと、犬山頭首工から羽島用水に5月から9月にかけて $6.5\text{m}^3/\text{s}$ の水を導水していると思いますが、新境川の下に羽島用水の導水管が通っております。ここに $5\text{m}^3/\text{s}$ 落としていただく。そうしますと、多分、今渡まで行く25km分の事業費がカ

ットされるのではないかと考えています。それから、各務原用水というのは、組合さんの方で管理してみえますので、多分5月から10月まで管理されていますので、それ以外のところで管理費をプラスしていけばいいのではないかと考えております。

もう1つは、羽島用水に6.5m³/sの水を1.5m³/sにさせていただきまして、愛知用水に5m³/s落とすということで、愛知用水はクリアしていくのではないかと考えております。

もう1つ、新境川に落とした水は、環境楽園を通過しまして馬飼頭首工から幹線によりまして三河、知多方面に放水する、これが今までつくった施設をいかに活用していくかという大きな原点になるのではないかと。

もう1つは、新境川に落とした水の中で冬季、10月～4月までは1.5m³/sの水を落とさせていただくことによりまして、境川流域の水質浄化につながっていくのではないかと。水は生かして使わないと、何もなしで伊勢湾に流すには余りにももったいないものだと、私は思っております。

続きまして、河道掘削に伴う環境整備について少しお話をさせていただきたいと思っております。当然、整備工事が行われれば、そこにおける生き物、生物はほぼ激減すると思っております。でも、多分10年～15年、その環境を整えばまた復元してきます。それにはどうしても10年～15年かかります。でも、そういう復元ができる環境をいかにそこでつくっていけるかというのが、今度の環境の部分の一番大事なことです。

河口堰を見てもらってもいいのですが、一番最初できた当時は、本当に生き物が激減しました。去年ぐらいからユリカモメが羽島のあたり、藪田のあたりまで今飛んできております。19年度のアユの遡上を見ていると、魚は小さいのですが、非常にたくさん上がっております。やはり年数がかかる、でも、そういう環境がいかに整っているかによりまして、これがどこまで伸びていけるかということです。水鳥の調査をしていますと、よくわかると思っております。

もう1つは、施行に当たり現在ある状況、現在に生物調査をきちっとする。それから、工事完了後の調査、フィールド調査を必ずきちっとしていくというのが大事です。いつも忠節橋の下で魚の調査をしてみえるみたいですが、非常に滑稽に私は思っております。やはり1年2年では戻らない。私たちの目につくものというのは、10年15年たたないと、戻ってきたのだなという意識は多分ないと思います。でも、生き物は一生懸命生きようとしています。それをどういうふうにして我々がカバーしていけるのかということは、これからの事業の大きな課題だと思っております。

最後になりますが、私たちがさまざまな時代の中で、川に関わりまして、そこには産業が生まれ、文化が生まれ、生活が生まれております。私たちこれから 21 世紀に向けまして、すてきな川づくりをしたい。21 世紀の川づくりに、こういう形で参加させていただいたことを非常に感謝しておりますが、でも、多くの人たちが賛同しなければいけない。岐阜がよければいい、大垣がよければいい、これではだめなんですね。でも、いつまでたっても岐阜県は愛知県の治水をやるところであって、利水をするところではないというばかげたことはやめていただきまして、岐阜県も生きていけることを考えていただきたいと思っています。

もう 1 つ、各務原用水の事業を進めるに当たりまして、岐阜県から今度の事業で何かお金を大分出さなきゃいけないような話が出ているのですけれども、各務原用水の補強と環境関係に予算を使っていただきまして、できるだけ短い距離の中で、後々、管理運営が楽な状況の中で、だれが見てもわかる状況の中で工事を進めていただきたいと思います。岐阜県は多くの市民団体を持っております。こういう市民団体をいかに活用していくかというのが、国土交通省のお仕事だと思っています。

以上でございますので、ひとつ子供たちに恥をかかない、僕らの時代、次の時代、次の時代に、ここまでやってくれたから後はこういうふうにすればいいんだなということになるような工事計画及び工事をやっていただきたいと思っています。

以上でございます。

【公述人 8】 スライドをお願いします。私は、笠松から来ました〇〇〇〇と申します。私は、流水管理と水利用の面についての意見ということで、そちらの面から述べさせていただきます。

ここにも書きましたように、計画原案で流水管理、水利用の現状について、パンフレットにも書いてありますけれども、許可水利権については、受益面積や農業形態の変化、取水量の実績等を踏まえて、10年間を基本に水利権の見直しを行っていると、しかし、私が見る限りは、実態では水需要が見直されず、流水管理、水利用計画が策定されているということが今回の計画ではないか。

特徴的なのは、木曾川水系の農業用水は、全水系の65%、約70%を農業用水が占めていて、非常に大きなポジションなんですね。例えば、犬山頭首工から取水している濃尾用水は、受益面積が昭和42年からの17年、約20年間に17,900haから9,300haと48%と、約半分になっているわけです。にもかかわらず、今回の計画では取水量は見直されず、既存の農業水利権のまま51m³/sのままで計画されています。こんなばかげたことがあり得るのかと思っています。したがって、これらの既存の農業水利権の見直し、水需要が不十分な上に策定された今回の流水管理計画、それから水利用については、反対するものだと思います。

次のスライドをお願いします。これは具体的に説明するために、木津用水等の農業用水の地区のかんがい面積と水需要の変化をあらわしたものです。上の水色が宮田用水、2番目が木津用水、3番目が羽島用水、紫が全体です。面積が昭和42年からの17年、約20年間、約半分に、48%減少しているわけです。それにもかかわらず、水需要は平行している。51m³/sのまま、むしろ最近は上がっていると、こんなばかげたことはどこの世界を見ても起こるわけではないわけで、これは非常にラフな水管理がなされているという、管理者として、これはどういうふうに解釈したらいいのか。水利権が一定という話で、これは宮田用水、木津用水、羽島用水、非常にばらばらな減少をしていますけれども、これも同じ水利権のままで水が取られている。面積が減って0になっても18m³/sとか51m³/s要るのかなというふうに私は思わざるを得ません。

次をお願いします。ここで計画で説明されているのは、農地のスプロール化に伴う管理用水が必要であるから水は減らない。農地からの地下水の補給の負担が増大すると、非かんがい期の地下水を回復させるのに初期用水が必要であると、用排分離、乾田化に伴う減水深の増大、反復利用の減少に伴う用水量の増大、こういうふうなわけで18m³/s水利用が

減らないんだと言っているのですけれども、私は、コメントするのですが、減水深というのは、田んぼの水が1日に減る量です。それが大体平均すると25~30mmです。地下水に幾ら食わせても2.6mmですよ、一宮で浅井戸で抜けていると、これ1/10なんですよ。

例えば、同じ面積が1haずつあると、こっちのところは宅地化して水が要らなくなったと、こっちはまだ水田だとしているのですけれども、こちらは25mm、こちらは水田になっているので、水田が宅地化になっているので2.6mmしか行かないわけです。こういう現象が言うなれば9割の水がどこへ行っているのかということと下流に流れるだけなんですよ、簡単に言えば。そういうことが今までの理由で使われているということは、どんな理屈、どうやって考えても地球のコペルニクスの転回が起こらないと、農業用水利の教科書のハンドブックを変えないと、こんなことは説明できないというのが私の意見です。

次のスライドをお願いします。もう1つ言いたいことは、少雨化に伴う流水管理、水利用対策について検討が非常に不十分と書きました。異常渇水に対処すべく新たな水資源開発が必要としている。それについて異常渇水が起こると、しかし、本当に新たな水施設が必要なんでしょうか、非常にこれは疑問に思っているわけです。

私の情報は古いのですけれども、昭和61年の渇水では、木曾川にはたくさんダム、揖斐川にもたくさんダムがあります。そこから今までダムがありませんので、三浦とか朝日等のダムから応援補給でその場をしのいで渇水をしのいだ経験があります。それはどういうふうなことを愛知県と発電・関電がやったのかということ、それは関電や中電に水利用者に発電すれば、ダムの水を補給するわけですから、それについて補給したということで減電、それだけ発電できないわけですから、減電補償を払うということで水利調整が行われて渇水を逃れたということがあります。だから、既存の施設をうまく水利用すれば、そういう異常渇水については、今の新しい施設をつくらなくてもいいのではないかというのが私の意見です。十分に既存の施設をうまく利用するというノウハウを今回の計画では考えられて検討されているのか、これについては非常に不十分な感じがしています。したがって、ソフトな対策、そういう水利調整をやるということを検討せずに、ハードだけで特化する計画というのは、私は非常に問題があるのではないかと考えています。

お手元の資料の16ページを開いていただきたいのですけれども、16ページの一番下の図は発電減水区間の図です。放流前と放流後という図があります。これは根尾川の山口頭首工の写真が出ています。これはなぜこんな状態が起こっているのかということ、山口頭首工のところに山口用水といいますか席田用水というのが水利権が32m³/s持っている。全部取

水していると、ここも面積が減って随分余裕がある話なのに、全量取水していると、昔は河川の利用というのは、河川の生態の話はないので、どれだけでも取ってもいいという話で全量取水しているから、こういう状態が起こっている。むしろ施設をつくらなくても既存の水利権を見直せば、こういうことは防げるはずじゃないかということです。

次のスライドをお願いします。最後に強調したいのは、こういう水利用実態を十分議論するような委員会に今回なってなかったのではないかと。私は、委員の資質について非常に問題があると思います。議論できる委員が選ばれて、まともな議論がなされていないのが今回の水利用計画であるので、これは十分もう 1 回再検討してほしいというのが私の意見です。

以上です。